



早明浦ダム
ホームページ

↑スマホはこちらから

早明浦ダムは昭和50年4月に管理を始めて、47年目を迎えます。

本年度の早明浦ダム管理事業は、次の内容を実施します。

【主な事業の実施内容】

●ダム周辺

ダムの機能を良好な状態で維持するために、昨年度に引き続き、放流ゲートを支えている柱などの塗替やゲートに取り付けている部品の整備を行うほか、ダムに異常がないかを確認する堤体観測やダムの各設備の点検などを行います。

●貯水池周辺

貯水池やその斜面の状態を維持するために、貯水池にたまった土砂を取り除く工事を行うほか、水質調査、斜面観測、環境調査や貯水池にたまった土砂の量を測るための測量などを行います。

調査
水質調査、斜面観測、環境調査等

塗装の塗替

点検・観測

部品取替

たまった土砂の除去

ダムからの警報が聞こえたら...

★★★★ダム知識 Information ★★★★★

■早明浦ダムの警報を聞いたことがありますか？

早明浦ダムでは、ゲートから放流を行うときには、川を利用している方々や住民の皆さまの安全を確保するため、警報（スピーカー、サイレン）やパトロールを行います。

この警報は、ダムから流れる水の量によってサイレンを鳴らす回数が変わります。

一昨年からは、異常洪水の危険があるときには、より緊迫した状況を伝えるために、サイレンに加え『緊急効果音』を鳴らすことにしました。

■疑似音が追加されました

今までスピーカー音声のみを放送していた箇所について、サイレンの疑似音を追加で鳴らすことにしました。聞き慣れない音が鳴りますが、より確実に危険度をお知らせできるよう工夫したものです。

大雨のときには自治体からの防災情報（防災無線・エリアメール・ホームページ等）が確認できる状態にして下さい。

放流警報区間

放流警報設備

警報監視距離 約53km

ファンファンファン

●スピーカ放送+サイレン
●スピーカ放送+疑似音

サイレン回数	ダムから流れる水の量	川の状態
2回	ゲートから放流を開始	水かさが増えます
4回	毎秒800m3を越える放流	氾濫する可能性
緊急効果音+6回	毎秒2,000m3を越える放流	異常洪水 氾濫の可能性大

☆☆ 再生事業からのお知らせ ☆☆

令和3年度の実施内容

本年度は、昨年度に引き続き、新たに増設する放流設備の設計や水理模型実験などを行います。

また、ダムには、ダム本体に生じる「たわみ」を計測するための「プラムライン」や水温、濁度を自動計測するなど、ダムの管理に必要な設備や機器が設置されていますが、再生事業の工事によりこれらの設備が使えなくなってしまうことから、本格的な工事が始まる前に別の場所へ新たに設置するための工事を行います。その他、工事用車両が通行するための工事用道路を整備します。

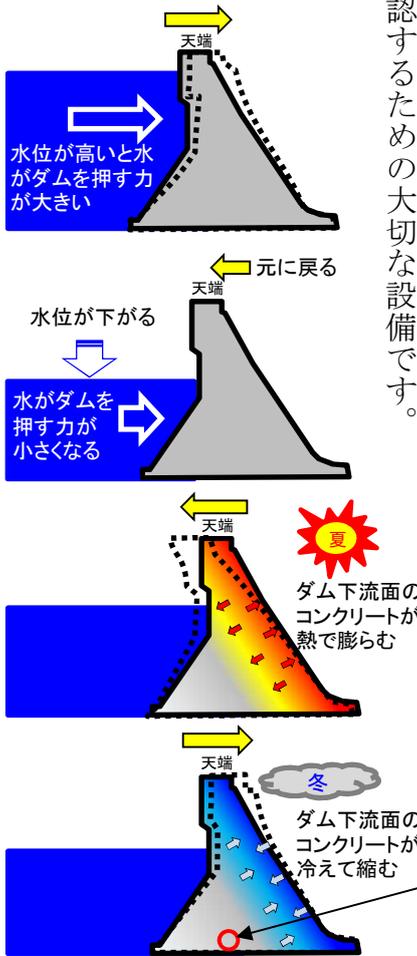
「プラムライン」って？

皆さん、ご存じですか？見た目にはわかりませんが、ダムは数ミリ程度動いています。それを測る設備が、「プラムライン」です。プラムラインは、ダムの天端から重しをつけたステンレス線を垂らしてダムの動きを測ります。

ダムは、貯水位が高い時、低い時で天端の位置がわずかに動いています。また、夏の暑い時や冬の寒い時には、コンクリートが膨らんだり縮んだりするため、同様に天端の位置がわずかに動いています。プラムラインは、このようなダムの動きをいち早く察知し、安全な範囲で動いているかを

確認するための大切な設備です。

イメージ図



水理模型実験(抽出模型)も進行中!

埼玉県にある水資源機構総合技術センターでは増設放流管・ゲート(水門)の設計に併せて抽出模型による水理模型実験を行っています。

この実験は、増設放流管・ゲート(水門)部分のミニチュア版の模型(32分の1)を設計どおりの形で製作し、そこに実際に水を流して、計画どおりの放流量を流せるか、また、放流により管が壊れないかなどを抽出模型に取り付けている計器や目視により確認するものです。

現在、3本ある増設放流管のうち、1本目は実験を終え、2本目の確認を行っており、その結果を放流設備の設計に反映させていきます。

増設放流管・ゲート(水門)の抽出模型

